

電話／テレビ電話のかけかた

テレビ電話について	60
電話／テレビ電話をかける	60
音声電話／テレビ電話を切り替える	62
リダイヤル／着信履歴を利用して電話をかける	63
着もじを利用する	65
1回の通話ごとに発信者番号を通知／非通知にする	186／184
ブッシュ信号（DTMF）を送出する	66
条件を設定して電話をかける	67
国際電話を利用する	67
国際ダイヤルアシスト設定を変更する	68
電話番号の先頭に付加するプレフィックスを設定する	69
サブアドレスを指定して電話をかける	69
周囲の騒音を抑えて通話を明瞭にする	69
車の中で手を使わずに話す	70

電話／テレビ電話の受けかた

電話／テレビ電話を受ける	70
音声電話／テレビ電話を切り替えて電話を受ける	71
ダイヤルキーなどを押して電話に出る	71
FOMA 端末を閉じて通話を切断／保留／継続する	71
通話中やパケット通信中の着信時に優先して表示する画面を設定する	71

電話／テレビ電話に出られないとき／出られなかったとき

すぐに電話に出られないときに保留にする	72
応答保留ガイダンスを設定する	72
公共モードを利用する	72
電話に出られないときに用件を録音／録画する	74
伝言メモまたは音声メモを再生／削除する	75

テレビ電話の設定

キャラ電を利用する	76
通話中に相手側に送信する映像について設定する	76
テレビ電話中の画面表示について設定する	77
テレビ電話の設定を変更する	77
テレビ電話の代替画像や保留画像などを設定する	78
音声電話とテレビ電話の切り替えについて設定する	78
パケット通信中着信設定を設定する	78
外部機器と接続してテレビ電話を使用する	79

テレビ電話について

テレビ電話機能は、ドコモのテレビ電話に対応した端末どうしで利用できます。自分側の映像としてキャラ電や静止画を送信したり、外側のカメラを利用して周囲の映像などを送信したりできます。

- テレビ電話は64kbpsでのみ通信できます。
- ドコモのテレビ電話は「国際標準の3GPP※¹で標準化された、3G-324M※²」に準拠しています。異なる方式を利用しているテレビ電話とは接続できません。

※1 3GPP (3rd Generation Partnership Project) …第3世代移動通信システム (IMT-2000) に関する共通技術仕様開発のために設置された地域標準化団体

※2 3G-324M…第3世代携帯テレビ電話の国際規格

◆ テレビ電話中の画面の見かた



① 親画面

相手側の映像を表示

② 子画面

自分側の映像を表示

③ 各設定内容

11~16: ズーム

17: カメラ映像送信中 18: カメラオフ画像送信中 19: キャラ電中

20: フレーム送信中 21: 静止画送信中 22: 通話保留中

23: 応答保留中 24: 伝言メモ録画中 25: 動画メモ録画中

26 Action / 27 Parts: アクションモード (全体アクション/パーツアクション)

28 STD / 29 / 30 / 31: 撮影モード (標準/逆光/モノトーン/セピア)

32: ナイトモードON

33 HQ: 送信画質 (動き優先/画質優先)

34 A: 音声送受信 35 V: 映像送受信 36 AV: 音声・映像送受信

37 1~4: 音量調整中

38: テレビ電話切り替え可

④ 通話時間

時:分:秒の形式で表示

電話／テレビ電話をかける

テレビ電話をかけるとき、代替画像設定で設定した代替画像が相手に送信されます。外側のカメラに切り替えたり、代替画像を変更したりできます。→ P76

1 電話番号を入力 (80桁以内)

- 一般電話にかけるときは、同じ市内への通話でも、必ず市外局番からダイヤルしてください。

CLR: 1桁削除

2 発信方法を選択

音声電話をかける:

テレビ電話をかける:

テレビ電話接続中は、自分側の映像が表示されます。

- 画面に「テレビ電話接続」と表示された時点から通話料金がかかります。

3 通話が終わったら

✓お知らせ

〈音声電話・テレビ電話共通〉

- 2in1がONでデュアルモードのときは、発信番号選択画面が表示されます。「Aナンバー」または「Bナンバー」を選択します。
- 番号通知お願いガイダンスが聞こえた場合は、発信者番号を通知する設定にしておかけ直してください。

〈音声電話〉

- を押した後に電話番号を入力しても電話をかけられます。その場合、電話番号を入力した後、約5秒後に電話がかかります。

〈テレビ電話〉

- キャラ電や静止画を送信しても、通信料金は音声通話料ではなくデジタル通信料になります。
- テレビ電話がかからなかったときは、画面に次のメッセージが表示され待受画面に戻ります。なお、通話する相手の電話機種別やネットワークサービスのご利用の有無により、実際の相手の状況とメッセージの表示が異なる場合があります。

主なメッセージ	理 由
お話中です	相手が話し中（相手の端末によっては、パケット通信中のときにも表示されることがある）
発信者番号通知をONにしてください	発信者番号が非通知（ビジュアルネットなどへの発信時）
音声電話でおかけ直しください	相手が転送でんわサービスを設定していて転送先がテレビ電話非対応端末
パケット通信中です	相手がパケット通信中
i モードから接続してください	IP（情報サービス提供者）が提供しているサイトに接続してからテレビ電話発信していない
上限額を超過しているため接続出来ません	リミット機能付料金プラン（タイプリミット、ファミリーワイドリミット）の上限額を超過している

- 音声自動再発信が「ON」のときに着もじを付加してテレビ電話を発信した場合は、再発信時も着もじが付加されます。
- 音声自動再発信が「ON」のときにFOMA端末から緊急通報（110番、119番、118番）へテレビ電話発信した場合は、自動的に音声電話発信となります。

◆ 通話中に保留にする〈通話中保留〉

通話中に自分の声を相手に聞こえないようにします。

- 保留中も発信側に通話料金ががかかります。

1 通話中に□

通話が保留になり、カラーランプが緑色で点滅し、メロディが流れます。テレビ電話のときは、自分と相手にテレビ電話保留中画像が表示されません。

- 音声電話の保留を解除するときは、またはを押します。

- テレビ電話の保留を解除するときは、次のいずれかの操作を行います。

：保留前に送信していた画像に戻る

：カメラ映像が送信される

／：代替画像が送信される

◆ スピーカーホン機能を利用する

スピーカーホン機能を利用せずにテレビ電話をかけたり受けたりするには、テレビ電話動作設定のスピーカーホン設定を変更します。

1 電話番号を入力▶（1秒以上）または

ディスプレイ上部にが表示されます。

- 電話帳、リダイヤル、着信履歴、伝言メモ一覧、音声メモ一覧から操作する場合は（1秒以上）またはを押します。
- テレビ電話動作設定のスピーカーホン設定が「OFF」のときに、スピーカーホン機能を利用してテレビ電話をかける場合は、を1秒以上押しします。
- 発信中、呼出中、通話中は、を押すたびにスピーカーホン機能のON／OFFを切り替えられます。

✓お知らせ

- スピーカーに切り替えると音量が急に大きくなります。FOMA端末を耳から離して使用してください。
- FOMA端末に向かって約50cm以内の距離でお話ください。周囲や相手側の雑音が大きく、スピーカーからの相手の声が聞き取りにくい場合は、スピーカーホン機能をOFFにしてください。
- マナーモード中でも本機能を利用できます。

◆ 通話中に受話音量を調整する〈受話音量〉

- 通話中に調整した受話音量は、音量設定の「受話音量」に反映されます。

1 通話中にまたはサイドキー [▲▼]

◆ はっきりボイス／ゆっくりボイスを利用する

◇ はっきりボイスを切り替える

音声電話中に周囲の騒音レベルを測定し、一定レベルを超えて騒音が大きくなった場合に、自動で相手の声を強調し聞き取りやすくします。また、相手や自分の声が小さいときにも自動で音量を大きくします。

- お買い上げ時は、「はっきりボイスON」に設定されています。
- スピーカーホン機能利用中は動作しません。
- 通話終了後も設定内容は保持されます。
- 本機能は受話音量を調整するためのものではありません。相手の声の音量は、受話音量で調整してください。

1 音声電話中に (7)

はっきりボイスをONにすると、**自動はっきりボイス**が表示されます。ONでも動作しないときはグレーで表示されます。

◇ ゆっくりボイスを切り替える

音声電話中に、無音区間を利用して相手の話す声がゆっくり聞こえるように調節し、聞き取りやすくします。相手が区切りのない話しかたをしたときなどは通常で聞こえます。

- お買い上げ時は、「ゆっくりボイスOFF」に設定されています。
- ゆっくりボイスをONにすると、相手の声質、音楽や時報などが変化する場合があります。その場合はOFFにしてください。
- 通話終了後、設定内容は解除されます。

1 音声電話中に

ゆっくりボイスをONにすると、**ゆっくりボイス**が表示されます。ONでも動作しないときはグレーで表示されます。

音声電話／テレビ電話を切り替える

- 発信側からのみ切り替え操作ができます。
- 音声電話／テレビ電話切り替え対応機種としてご利用いただけます。
- 音声電話とテレビ電話の通話時間に応じて、通話料金がそれぞれ加算されます。
- 切り替え操作を行うには、相手がテレビ電話切替機能通知を開始している必要があります。→P78

〈例〉音声電話中にテレビ電話へ切り替える

1 音声電話中に ▶ 「はい」



- 切り替え中は、電話を切り替える旨のガイダンスが流れます。
- テレビ電話に切り替わるとスピーカーホン機能を利用した通話になります。

テレビ電話中に音声電話へ切り替える：テレビ電話中に (1) ▶ 「はい」

- 音声電話に切り替わるとスピーカーホン機能は解除されます。

✓お知らせ

- 切り替えには5秒程度かかります。電波状態によっては、切り替えに時間がかかる場合があります。
- 切替中画面が表示されている間は、料金は加算されません。
- 電波状態によっては切り替えができません、電話が切れる場合があります。
- キャッチホンでの音声電話中は、テレビ電話に切り替えられません。
- 音声電話中にパケット通信を行っている場合は、パケット通信を切断してテレビ電話に切り替えます。
- 相手側がパケット通信中の場合は、テレビ電話に切り替えられません。
- カメラ画像の送信などテレビ電話に行った設定は、音声電話とテレビ電話を切り替えるたびに解除されます。→P76

リダイヤル／着信履歴

リダイヤル／着信履歴を利用して電話をかける

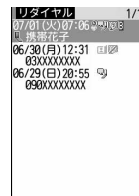
音声電話やテレビ電話の発信履歴（リダイヤル）と着信履歴を記録しておく機能です。

- リダイヤルと着信履歴はそれぞれ最大30件記録されます。超過すると古いものから上書きされます。
- 2in1がONのときは、リダイヤルと着信履歴はそれぞれAナンバー最大30件、Bナンバー最大30件の合計60件まで記録されます。AモードではAナンバーの履歴のみ、BモードではBナンバーの履歴のみ表示されます。デュアルモードではすべての履歴が表示されます。
- 同じ電話番号に発信した場合は、番号通知の「指定なし」「通知」「非通知」のそれぞれについて最新の1件がリダイヤルに記録されます。

1 [] (リダイヤル) または [] (着信履歴) ▶ 相手にカーソルを合わせる

- かけ直す相手を選択すると詳細画面が表示されます。

〈例〉リダイヤル画面



リダイヤル一覧画面



リダイヤル詳細画面

- マークの意味は次のとおりです。
 - []/[]: 音声電話／国際音声電話の発信信※1
 - []/[]: テレビ電話／国際テレビ電話の発信信※1
 - []/[]: 64Kデータ通信／国際64Kデータ通信の着信
 - []/[]: 不在着信／未確認不在着信
 - []/[]: 伝言メモ／未確認伝言メモ※2
 - []: 着もじ付きの着信
 - []/[]: 着もじ付きの不在着信／未確認不在着信
 - []/[]: 着もじ付きの伝言メモ／未確認伝言メモ※2
 - []/[]: 発信オプションまたは電話帳の発番号設定で設定した番号通知／番号非通知の発信
 - []: 海外滞在時 (GMT+09:00を除く) の発信信※3
 - []: Bナンバーの発信信 (2in1がONでデュアルモードの場合)
 - []: 不在着信の呼出時間
- ※1 「010」を直接入力して発信した場合は、国際電話のマークは表示されません。「010」を電話帳に登録した場合も同様です。
- ※2 伝言メモを削除すると、不在着信のマークに変わります。
- ※3 発信信日時が記録されていないときなど、表示されない場合があります。

2 [] または []

- 詳細画面で [] を押すと、選択しているリダイヤル／着信履歴の発信方法と同じ方法で発信されます。
- [] (1) を押すと、条件を設定して電話をかけられます。→P67
- 2in1がONでデュアルモードのときは、発信信時のナンバーに従って発信されます。

✓お知らせ

〈リダイヤル・着信履歴共通〉

- 電話帳に画像を登録している場合は、画像／名前表示切替の設定に従って詳細画面に画像が表示されます。
- 国際電話の場合は、電話番号の前に「+」が表示されます。「010」を付けて発信した場合は表示されません。
- 音声電話中に  を押すと、リダイヤル／着信履歴が表示されます。

〈リダイヤル〉

- マルチナンバーを契約し、サブメニューからマルチナンバーを選択して発信した場合は、発信したマルチナンバーの名称が詳細画面に表示されます。

〈着信履歴〉

- 相手の電話番号が通知されなかった場合は、発信者番号非通知理由が表示されます。
- マルチナンバーを契約している場合は、着信したマルチナンバーの名称が詳細画面に表示されます。
- 会社などでダイヤルインを利用している相手から着信した場合、相手のダイヤルイン番号と異なった番号が表示される場合があります（ダイヤルインとは、1本の回線で着信用の電話番号を複数持てるサービスです）。
- 受信した着もじは着信履歴に記録されます。
- 通話中に音声電話とテレビ電話が切り替わった場合、着信履歴には着信時の種別（音声電話またはテレビ電話）が記録されます。
- 呼出動作開始時間設定で設定した呼出開始時間内の不在着信も含め、すべての着信履歴を表示する場合は、着信履歴一覧で    を押します。元の着信履歴に戻す場合は、   を押します。
- 着信履歴一覧で    を押すと、未確認の不在着信の件数を表示できます。

◆リダイヤル／着信履歴を利用する

電話帳に登録する：

- 相手にカーソルを合わせて    または    または   
 - 登録済みの電話帳データに登録するときは、電話帳データを選択します。
- 名前やメールアドレスなどを登録
電話帳登録→P83

i モードメールを作成する：相手にカーソルを合わせて 

SMSを作成する：相手にカーソルを合わせて （1秒以上）

リダイヤル一覧と着信履歴一覧を切り替える： 

メール送信履歴／受信履歴を表示する：

✓お知らせ

- 2in1がONのときは、Bナンバーのリダイヤル／着信履歴では i モードメールとSMSは作成できません。

◆詳細画面の表示を切り替える〈画像／名前表示切替〉

1 詳細画面で

各設定項目→P87「詳細画面の表示を切り替える」

◆かかってきた電話に出られなかったとき〈不在着信〉

待受画面に          (数字は件数) が表示され、着信履歴に不在着信として記録されます。

- 覚えのない番号からの不在着信があった場合、呼出時間により、着信履歴を残すことだけを目的としたような迷惑電話（「ワン切り」など）かどうかを確認できます。

◆リダイヤル／着信履歴を削除する〈リダイヤル／着信履歴削除〉

〈例〉1件削除する

1 (リダイヤル) または (着信履歴)

2 相手にカーソルを合わせて

複数削除する：                                                        

着もじを利用する

音声電話やテレビ電話をかける際、呼出中に相手側へメッセージを送ることで、あらかじめ用件や緊急度を伝えることができます。

- 着もじの詳細や対応機種については、ドコモのホームページまたは『ご利用ガイドブック（ネットワークサービス編）』をご覧ください。
- 送信側は料金がかかります。受信側は料金がかかりません。



◆メッセージを登録する

- 最大10件登録できます。

1 【設定／NWサービス】

2 「〈新しいメッセージ〉」

- 登録済みの着もじを選択すると修正できます。

送信した着もじを引用して作成する： ▶ 着もじを選択

着もじを削除する：着もじにカーソルを合わせて ▶ または

▶ 「はい」

3 着もじを入力（10文字以内）

- 絵文字・記号も入力できます。

4

登録済みの着もじを修正したときは、登録確認画面が表示されます。

◆着信時のメッセージの表示について設定する〈メッセージ表示設定〉

1 【設定／NWサービス】 ▶ ～

- 「表示しない」にすると着もじを受信しません。

◆メッセージをつけて電話をかける

着もじは相手の着信画面に表示されます。

- 送信した着もじは送信メッセージ履歴に最大10件保存されます。超過すると古いものから上書きされます。
- 2in1がONのときは、送信した着もじは送信メッセージ履歴にAナンバー最大10件、Bナンバー最大10件の合計20件まで保存されます。AモードではAナンバーで送信した着もじのみ、BモードではBナンバーで送信した着もじのみ表示されます。デュアルモードではすべての着もじが表示されます。

〈例〉着もじを作成する

1 電話番号を入力▶

2 ▶ 着もじを入力（10文字以内）▶

発信オプション画面に入力した着もじが表示されます。

- 絵文字・記号も入力できます。

登録した着もじから選択する： ▶ 着もじを選択

送信メッセージ履歴から選択する： ▶ 着もじを選択

3 または

呼出中画面に「送信しました」と表示され、送信料金がかかります。相手が非対応端末の場合やメッセージ表示設定などにより届かなかった場合、または海外に滞在している場合は、呼出中画面に「送信できませんでした」と表示され、送信料金はかかりません。

✓お知らせ

- 着信側が次の場合は着もじは送信できず、着信履歴にも記録されません。発信側には送信結果は表示されず、送信料金はかかりません。
 - 圏外にいるときや電源が切れている場合
 - 伝言メモ応答時間設定が「0秒」の場合
 - 公共モード（ドライブモード）中 など
- リダイヤル、着信履歴からの操作：→「着もじ」
- 伝言メモ一覧、音声メモ一覧、スケジュールのメンバーリスト一覧画面からの操作：→「発信オプション」
- 電話帳の電話帳一覧からの操作：→「発信オプション/メール」→「発信オプション」
- 電話帳の電話番号の詳細画面からの操作：→「着もじ/マルチナンバー」→「着もじ」
- 相手が呼出動作開始時間設定を設定している場合、呼出開始時間内でも着もじは送信され、送信料金がかかります。
- 電波状態によって、相手の端末に着もじが届いても発信側に送信結果が表示されない場合があります。この場合でも送信料金はかかりません。
- 海外では着もじを送受信することはできません。
- 2in1がONでデュアルモードのとき、Bナンバーの送信メッセージ履歴にはが表示されます。

186/184

1回の通話ごとに発信者番号を通知/非通知にする

- 発信者番号はお客様の大切な情報です。発信者番号を通知する際には、十分にご注意ください。
- 番号通知方法の優先順位→P57

発信者番号を通知する： ▶電話番号を入力▶または

発信者番号を通知しない： ▶電話番号を入力▶または

✓お知らせ

- 国際電話では「186」を付けても、経由する電話会社などにより発信者番号が通知されない場合があります。
- 「186」または「184」を付けて発信した場合、リダイヤルにはその番号が付いた電話番号が記録されます。

プッシュ信号（DTMF）を送出する

FOMA端末からプッシュ信号（DTMF）を送出して、チケットの予約、銀行の残高照会などのサービスを利用できます。

- ポーズとタイマーは音声電話にのみ有効です。

※ポーズ「P」を入力する

ご自宅の留守番電話の操作やチケットの予約などに利用します。ポーズ（「P」）が入力された箇所電話番号を区切ってプッシュ信号が送出されます。

- 1 電話番号を入力▶（1秒以上）▶送出する番号を入力▶

電話がつながった後にを押すと、ポーズ（「P」）以降の番号が送出されます。

※タイマー「T」を入力する

外線番号に続けて内線番号を入力するときなどに利用します。外線番号と内線番号の間にタイマー（「T」）を入力することによって、外線番号に続いて一定の秒数が経過した後に内線番号が発信されます。

- 1 電話番号を入力▶（1秒以上）▶内線番号を入力▶
- タイマー（「T」）は連続して入力できます。
 - タイマー（「T」）1つにつき、約1秒の間隔をとります。

※テレビ電話中にプッシュ信号を送出する

- 1 通話中に ▶送出する番号を入力

押した番号が画面に表示され、プッシュ信号が送出されます。

：送出解除

- カメラ映像送信中やカメラオフ画像送信中は を押さなくても、ダイヤルキーを押すだけでプッシュ信号が送出できます。
- カメラ映像に設定したフレームや代替画像に設定した静止画は解除されます。
- プッシュ信号はダイヤルキーで送出するため、キャラ電中はダイヤルキーによるアクション操作はできません。

✓お知らせ

- ・ブッシュ信号は、受信側の機器によっては受信できない場合があります。
- ・通話を保留にして別の相手にポーズ（「P」）、タイマー（「T」）を入力して電話をかけることはできません。

発信オプション

条件を設定して電話をかける

音声電話やテレビ電話をかけるたびに、発信時の条件を設定します。

- ・番号通知方法の優先順位→P57

1 電話番号を入力▶ (2) ▶各項目を設定

着もじ：着もじを作成したり選択したりします。→P65

マルチナンバー／自局番号：発信番号を選択します。

マルチナンバーの発信方法→P378

- ・2in1がONでデュアルモードまたはBモードのときは「自局番号」が表示されます。デュアルモードのときは「Aナンバー」または「Bナンバー」を選択します。→P378

発信方法：発信方法を選択します。

番号通知：発信者番号の通知／非通知を設定します。「指定なし」にすると、発信者番号通知設定に従って動作します。

プレフィックス：電話番号の前に付加する番号（プレフィックス）を選択します。

国際電話発信：国際電話をかけるかどうかを設定します。→P68

国際プレフィックス：国際電話をかけるときに、国際アクセス番号を選択します。

国番号：国際電話をかけるときに、国番号を選択します。

2 または

設定した内容で電話がかかります。

- ・「発信方法」で「テレビ電話」を選択した場合は、を押すと通話中に表示するキャラ電を選択できます。
- ・受信／送信メール詳細画面から操作するとき、またはPhone To (AV Phone To) 機能を利用するときは、発信確認画面が表示される場合があります。「元の番号で発信」を選択すると、「着もじ」と「発信方法」以外の設定内容が解除された状態で発信されます。

✓お知らせ

- ・「発信方法」の「SMS」は、SMS To機能を利用する場合などで選択できます。
- ・国際電話では番号通知で「通知」を選択しても、経由する電話会社などにより発信者番号が通知されない場合があります。

WORLD CALL

国際電話を利用する

- ・海外利用について→P390
- ・「WORLD CALL」はドコモの携帯電話からご利用いただける国際電話サービスです。
- ・通話先は世界約240の国と地域です。
- ・「WORLD CALL」の料金は毎月のFOMAサービスの通信料金と合わせて請求させていただきます。
- ・申込手数料は不要です。また、月額使用料は無料です。
 - ※ FOMAサービスをご契約のお客様は、ご契約時にあわせて「WORLD CALL」もご契約いただいています（ただし、不要のお申し出をされた方を除きます）。
- ・一部ご利用にならない料金プランがあります。
- ・「WORLD CALL」についての詳細は、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。
 - ※ ドコモ以外の国際電話サービス会社をご利用いただく場合は、各国際電話サービス会社に直接お問い合わせください。

海外の特定3G携帯端末をご利用のお客様に対し、次のダイヤル方法の後テレビ電話モードで発信すれば「国際テレビ電話」がご利用いただけます。

- ・接続可能な国および通信事業者などの情報についてはドコモの『国際サービスホームページ』をご覧ください。
- ・国際テレビ電話の接続先の端末により、FOMA端末に表示される相手側の画像が乱れたり、接続できない場合があります。

1 0 1 0 ▶ 国番号 ▶ 地域番号（市外局番） ▶ 電話番号を入力 ▶

- 地域番号（市外局番）が「0」で始まる場合には「0」を除いて入力してください。ただし、イタリアの一般電話などにおかけになる場合は「0」が必要です。
- 上記の電話番号をFOMA端末の電話帳に登録できます。
- 009130 ▶ 010 ▶ 国番号 ▶ 地域番号（市外局番） ▶ 電話番号でもかけられます。

◆「+」を入力して国際電話をかける

「+」を入力すると国際アクセス番号「009130010（WORLD CALL）」に変換されます。

- 「+」の後に日本の国番号「81」を入力して発信した場合は、国際アクセス番号は変換されません。

1 0（1秒以上） ▶ 国番号 ▶ 地域番号（市外局番） ▶ 電話番号を入力 ▶

- 0 を1秒以上押すと「+」が入力されます。
- 地域番号（市外局番）が「0」で始まる場合には「0」を除いて入力してください。ただし、イタリアの一般電話などにおかけになる場合は「0」が必要です。

2 「はい」

◆国際アクセス番号と国番号を選んで国際電話をかける

国際ダイヤルアシスト設定に登録している国際アクセス番号や国番号を選択します。

1 地域番号（市外局番） ▶ 電話番号を入力 ▶ 2 ▶ 国際電話発信欄を選択 ▶ 2 ▶ 国際プレフィックス欄を選択 ▶ 国際アクセス番号の名称を選択 ▶ 国番号欄を選択 ▶ 国番号を選択 ▶ または

2 「はい」

- 「元の番号で発信」を選択すると、「着もじ」と「発信方法」以外の設定内容が解除された状態で発信されます。

国際ダイヤルアシスト設定

国際ダイヤルアシスト設定を変更する

◆自動変換機能を設定する〈自動変換機能設定〉

「+」を入力して国際アクセス番号を自動変換するかどうかを設定します。また、海外から電話をかけるときに国番号を付加するかどうかを設定します。

1 【設定／NWサービス】 9 2 1 ▶ 各項目を設定 ▶

国番号変換：「ON」を選択し、国番号を選択します。

- 海外で電話をかけるときに有効です。

国際プレフィックス変換：「ON」を選択し、「+」を自動変換させる国際アクセス番号を選択します。

◆国番号を編集する〈国番号設定〉

海外から国際電話をかけるときに必要な国番号を最大22件登録できます。

1 【設定／NWサービス】 9 2 2

2 国番号を選択

自動変換させる国番号を選択する：国番号にカーソルを合わせて  選択した番号の前に✓が表示されます。

国番号を削除する：国番号にカーソルを合わせて  3 ▶ 「はい」

3 各項目を設定 ▶

国名称：全角8（半角16）文字以内で入力します。

国番号：5桁以内で入力します。

◆ 国際アクセス番号を登録する〈国際プレフィックス設定〉

国際電話をかけるときに電話番号の先頭に付加する国際アクセス番号を最大3件登録できます。

1  [設定／NWサービス]   

2 「〈未登録〉」

自動変換させる国際アクセス番号を選択する：国際アクセス番号にカーソルを合わせて

選択した名称の前に✓が表示されます。

国際アクセス番号を削除する：国際アクセス番号にカーソルを合わせて  ▶ 「はい」

3 各項目を設定▶

名称：全角8（半角16）文字以内で入力します。

国際アクセス番号：10桁以内で入力します。

プレフィックス設定

電話番号の先頭に付加するプレフィックスを設定する

国際アクセス番号など、電話番号の先頭に付加する番号（プレフィックス）をあらかじめ設定できます。

- 最大3件登録できます。
- プレフィックスを選択して電話をかける→P67

1  [設定／NWサービス]    ▶ 入力欄に番号を入力（10桁以内）▶

- 番号（プレフィックス）にポーズ（「P」）、タイマー（「T」）を含めてプレフィックスを設定すると、そのプレフィックスを付加して電話をかけることはできません。

サブアドレス設定

サブアドレスを指定して電話をかける

サブアドレスを指定して特定の電話機や通信機器を呼び出すかどうかを設定します。

- サブアドレスとは、同じ電話番号内にある複数の電話機や通信機器の中から、特定の機器を呼び出すときに使う番号です（ISDN回線で、サブアドレスが振られている機器を複数接続している場合など）。また、映像配信サービス「Vライブ」でコンテンツを選択するときにも利用します。

1  [設定／NWサービス]    ▶  または 

※サブアドレスを指定して電話をかける

1 電話番号を入力▶▶サブアドレスを入力▶または

✓お知らせ

- サブアドレス設定を「ON」にしている、ポーズ（「P」）やタイマー（「T」）を入力した後に「*」を入力した場合は、サブアドレスの区切りとしては認識されず、「*」を含んだブッシュ信号として送出されます。

ノイズキャンセラ設定

周囲の騒音を抑えて通話を明瞭にする

通話中の周囲の騒音を抑え、自分の声と相手の声を明瞭にして通話できます。通常は、「ON」にした状態で使用することをおすすめします。

1  [設定／NWサービス]    ▶  または 

車の中で手を使わずに話す

FOMA端末を車載ハンズフリーキット01（別売）やカーナビなどのハンズフリー対応機器と接続することにより、ハンズフリー対応機器から音声電話の発着信などの操作ができます。

- ハンズフリー対応機器の操作については、各ハンズフリー対応機器の取扱説明書をご覧ください。なお、車載ハンズフリーキット01（別売）をご利用時には、FOMA 車載ハンズフリー接続ケーブル01（別売）が必要です。

✓お知らせ

- ハンズフリー対応機器から音を鳴らす設定にしている場合、FOMA端末でのマナーモードや着信音の設定に関わらず、電話がかかってくるとハンズフリー対応機器から着信音が鳴ります。
- ハンズフリー対応機器から音を鳴らす設定にしている場合、通話中クローズ設定に関わらず、FOMA端末を閉じても通話は継続されます。
- 伝言メモ設定中の着信動作は、伝言メモの設定に従います。

電話／テレビ電話を受ける

テレビ電話を受けるとき、代替画像設定で設定した代替画像が相手に送信されます。外側のカメラに切り替えたり、代替画像を変更したりできます。→P76

- FOMA端末を開くだけでは電話を受けられません。

1 電話がかかってくる

着信音が鳴り、ランプが点灯または点滅します。

：着信音量調整

サイドキー ：着信音、バイプレータの動作を止める

相手の電話番号が通知されたとき

相手の電話番号が表示されます。相手の電話番号を電話帳に登録している場合は、電話帳に登録した名前が表示されます。→P82

相手の電話番号が通知されなかったとき

発信者番号非通知理由が表示されます。

非通知設定：発信者の意思により発信者番号を通知しないで発信した場合

公衆電話：公衆電話などから発信した場合

通知不可能：海外や一般電話から各種転送サービスを経由した場合など、発信者番号を通知できない状態で発信した場合（経由する電話会社によっては通知される場合もあります）

2 着信方法を選択

音声電話を受ける：

- やダイヤルキーなどを押しても電話を受けられます（エニーキーアンサー）。

テレビ電話を受ける：または

テレビ電話接続中は、自分側の映像が表示されます。

- エニーキーアンサーは無効です。

3 通話が終わったら

✓お知らせ

- 着もじを受信した場合は、着信画面に着もじが表示されます。電話に出ると、着もじは消えます。→P65
- FOMA端末から転送された電話を着信したとき、転送元の電話番号を電話帳に登録していない場合は電話番号が、登録している場合は名前が、着信画面に表示されます。ただし、転送元によっては、電話番号や名前が表示されない場合があります。
- サブアドレスが通知されてきた場合、発信者番号の後ろに「*」とサブアドレスが表示されます。
- 国際電話がかかってきた場合、発信者番号の先頭に「+」が表示されます。

◆着信中のサブメニューからの操作

音声電話またはテレビ電話の着信中に、サブメニューから次の操作ができます。

サブメニュー	動作
①着信拒否	電話を受けずに切断
②留守番電話	留守番電話サービスセンターに接続
③転送でんわ	転送先へ転送

◆ 音声電話中に「プブ…プブ…」という音（通話中着信音）が聞こえたとき

留守番電話サービス、キャッチホン、転送でんわサービスのいずれかをご契約いただき、通話中の着信動作選択を「通常着信」にすると、音声電話中に別の音声電話がかかってきたときに「プブ…プブ…」という通話中着信音が聞こえます。

- 留守番電話サービス、キャッチホン、転送でんわサービスを開始にしている場合は各サービスが動作します。
- 着信中のサブメニューから操作できます。

音声電話／テレビ電話を切り替えて電話を受ける

音声電話をかけてきた相手がテレビ電話に切り替えたときや、テレビ電話をかけてきた相手が音声電話に切り替えたときには、対応する操作が必要です。

- 発信側からのみ切り替え操作ができます。
- 切り替えに応じるには、テレビ電話切替機能通知を開始しておく必要があります。→P78

1 通話中に切り替え要求を受ける

- 切り替え中は、電話を切り替える旨のガイダンスが流れます。
- テレビ電話に切り替えるとスピーカーホン機能を利用した通話になります。音声電話に切り替えるとスピーカーホン機能は解除されます。

エニーキーアンサー設定

ダイヤルキーなどを押して電話に出る

〔〕以外に〔0〕～〔9〕、〔〕、〔〕、〔〕を押して電話に出られるようにするかどうかを設定します。

- 音声電話にのみ有効です。ただし、通話中の着信に対しては無効です。

1   【設定／NWサービス】〔5〕〔3〕▶〔1〕または〔2〕

通話中クロース設定

FOMA端末を閉じて通話を切断／保留／継続する

- 64Kデータ通信中、パケット通信中は動作しません。

1  【設定／NWサービス】〔5〕〔7〕〔2〕▶〔1〕～〔3〕

✓お知らせ

- 次の場合は、FOMA端末を閉じても本設定に関わらず通話は継続されます。
 - 平型スイッチ付イヤホンマイク（別売）を接続中
 - ハンズフリー対応機器接続中で、接続中の機器から音を鳴らす設定にしているとき
 - 伝言メモ録音または録画中
- 「通話継続（マイクミュート）」にした場合、スピーカーホン機能を利用しているときは、自分の声は相手には聞こえませんが、相手の声がスピーカーから聞こえます。また、テレビ電話中にカメラ映像を送信しているときは、相手には代替画像が送信されます。送信していたフレームは解除されます。
- 音声電話中の操作： → 「通話中クロース設定」

マルチアクセス中表示

通話中やパケット通信中の着信時に優先して表示する画面を設定する

音声電話中にパソコンとつないだパケット通信の着信があったときや、iモード中に音声電話がかかってきたときに、どちらの画面を優先的に表示させるかを設定します。

- 画面の表示が切り替わっても、通話やパケット通信は中断されません。
- 音声電話中にiモードメールやメッセージR/Fを受信したときは、本設定に関わらず、音声電話中の画面が優先して表示されます。
- データ放送サイト表示中に音声電話を着信したときは、本設定に関わらず、音声電話着信画面が優先して表示されます。→P267「タイムシフト機能」

1 【設定／NWサービス】 ▶ ～

設定なし：表示の優先を決めずに後から着信した方の画面を表示します。
ただし、音声電話中にパケット通信を着信したときは、音声電話中の画面を表示します。

音声通話表示優先：音声電話中の画面を表示します。

パケット通信表示優先：音声電話中はパケット通信中の画面を、i モード中は i モード中の画面※を表示します。

※  を押すと画面切替メニューが表示され、電話を受けられます。

応答保留

すぐに電話に出られないときに保留にする

- 応答保留中でも発信側には通話料金がかかります。

1 着信中に

応答保留になり、相手に応答保留ガイダンスが流れます。
テレビ電話の場合は、自分と相手にテレビ電話応答保留画像が表示されます。

2 電話に出られる状態になったら

- テレビ電話の場合は  を押しても電話に出ることができます。
- 応答保留中に  を押すか、相手が電話を切ると、通話が終了します。

応答保留ガイダンス設定

応答保留ガイダンスを設定する

自分の声を応答保留ガイダンスとして録音できます。

- ガイダンスは1件、約10秒間録音できます。
- 内蔵音には「ただいま電話に出ることができません。そのままお待ちになるか、しばらくたってからおかけ直してください。」と登録されています。

1 【設定／NWサービス】 ▶ 保留音欄を選択 ▶

- 内蔵音のガイダンスに戻すときは  を押し、操作3に進みます。

2 ガイダンスの編集欄の「録音」▶ 発信音の後に応答保留ガイダンスを録音する

メッセージが表示された後、録音が開始されます。

- 録音開始から約10秒後に終了音（ピーツ）が鳴ります。
- 録音を途中で停止するときは  を押します。
- 録音したガイダンスを削除すると、内蔵音のガイダンスに戻ります。
- 録音したガイダンスを確認するときは「再生」を選択します。

3

公共モードを利用する

◆ 公共モード（ドライブモード）を起動する

公共モードは、公共性の高い場所でのマナーを重視した自動応答サービスです。公共モードを設定すると、電話をかけてきた相手に運転中もしくは通話を控える必要のあるような場所（電車、バス、映画館など）にいるため、電話に出られない旨のガイダンスが流れ、切断されます。

- 公共モードの設定や解除は、待受中のみできます。ディスプレイ上部に「圏外」が表示されているときでも可能です。
- 公共モード中でも、通常どおり電話をかけることができます。
- マナーモード中、伝言メモ設定中でも、公共モードが優先されます。
- 公共モード中に緊急通報（110番、119番、118番）を行うと、公共モードは解除されます。

1 （1秒以上）

公共モードが設定され、待受画面に  が表示されます。

着信時に「ただいま運転中もしくは携帯電話の利用を控えなければならない場所にいるため、電話に出られません。のちほどおかけ直してください。」というガイダンスが流れます。

解除する：  （1秒以上）

◆ 公共モード（ドライブモード）を起動すると

音声電話がかかってきたときは、相手に運転中もしくは携帯電話の利用を控えなければならない場所にいる旨のガイダンスが流れ、切断されます。テレビ電話がかかってきたときは、相手に公共モードの映像ガイダンスが表示され、切断されます。どちらの場合も、お客様のFOMA端末は着信動作を行わず、待受画面には  (数字は件数) が表示され、不在着信として記録されます。

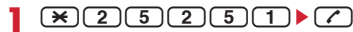
- 次の音が鳴りません。また、パイプレータやランプなども動作しません。
 - 電話の着信音
 - メールやメッセージR/Fなどの着信音
 - お知らせタイマー、目覚まし、スケジュールアラームの音
 - i アプリのサウンド
 - 通話料金上限通知※
 - 電池アラーム音
 - 充電開始／完了音

※ 通話料金上限通知を「ON」にし、アラームを設定している場合でも、メッセージは表示されません。

- 公共モード中でもワンタッチアラームは起動します。ただし、ワンタッチアラーム設定中のカラーランプは点滅しません。
- セキュリティランプ設定を「ON」にしても、開閉ロックまたはオートキーロックの状態を背面表示部とカラーランプではお知らせしません。
- i チャンルのテロップは表示されません。

◆ 公共モード（電源OFF）を設定する

公共モード（電源OFF）は、公共性の高い場所でのマナーを重視した自動応答サービスです。公共モード（電源OFF）を設定すると、電源を切っている間の着信時に、電話をかけた相手に電源を切る必要がある場所（病院、飛行機、電車の優先席付近など）にいるため電話に出られない旨のガイダンスが流れ、切断されます。



公共モード（電源OFF）が設定されます（待受画面上の変化はありません）。

公共モード（電源OFF）設定後、電源を切っている間の着信時に「ただいま携帯電話の電源を切る必要がある場所にいるため、電話に出られません。のちほどおかけ直してください。」というガイダンスが流れます。

解除する：

設定を確認する：

◆ 公共モード（電源OFF）を起動すると

音声電話がかかってきたときは、相手に電源を切る必要がある場所にいる旨のガイダンスが流れ、切断されます。テレビ電話がかかってきたときは、相手に公共モードの映像ガイダンスが表示され、切断されます。

- 「*25250」をダイヤルして公共モード（電源OFF）を解除するまで設定は継続されます。電源を入れるだけでは設定は解除されません。
- サービスエリア外または電波が届かない所にいる場合も、公共モード（電源OFF）のガイダンスが流れます。

◆ ネットワークサービスと公共モード（ドライブモード／電源OFF）中の着信動作

サービス名	音声電話を着信した場合	テレビ電話を着信した場合
留守番電話サービス	相手に公共モードのガイダンスが流れ、留守番電話サービスセンターに接続される※	相手に公共モードの映像ガイダンスは表示されず、留守番電話サービスセンターに接続される
転送でんわサービス	相手に公共モードのガイダンスが流れ、転送先に転送される※ 相手に流れるガイダンスの有無は、転送でんわサービスの設定に従う	相手に公共モードの映像ガイダンスは表示されず、転送先に転送される 転送先がテレビ電話に対応していない場合は切断される
迷惑電話ストップサービス	相手を着信拒否に登録している場合、相手に着信拒否のガイダンスが流れ切断される	相手を着信拒否に登録している場合、相手に着信拒否の映像ガイダンスが表示され、切断される
番号通知お願いサービス	• 相手が電話番号を通知していない場合は、相手に番号通知お願いのガイダンスが流れ切断される • 相手が電話番号を通知している場合は、相手に公共モードのガイダンスが流れ切断される	• 相手が電話番号を通知していない場合は、相手に番号通知お願いの映像ガイダンスが表示され切断される • 相手が電話番号を通知している場合は、相手に公共モードの映像ガイダンスが表示され切断される

※ 呼出時間が「0秒」の場合は公共モードのガイダンスは流れず、着信履歴には記録されません。

電話に出られないときに用件を録音／録画する

伝言メモを起動しておくと、電話に出られないときに応答ガイダンスが流れ、相手の用件が録音または録画されます。

- 音声電話とテレビ電話を合わせて最大4件、1件につき約30秒間録音または録画できます。
- 2in1がONのときは、AナンバーとBナンバーに着信した伝言メモを合わせて最大4件録音または録画できます。AモードではAナンバーに着信した伝言メモのみ、BモードではBナンバーに着信した伝言メモのみ表示されます。デュアルモードのときはすべての伝言メモが表示されます。

◆ 伝言メモを起動する

伝言メモを起動するかどうかを設定します。

- FOMA端末を開いている状態で操作してください。

1 サイドキー [▲] (1秒以上) ▶ ▶ または

伝言メモを起動すると、待受画面にが表示されます。

◆ クイック伝言メモで対応する〈クイック伝言メモ〉

伝言メモを起動していなくても、着信中にサイドキー [▲] を1秒以上押すと、その着信に限り伝言メモを1回だけ動作させられます。この操作は、伝言メモを開始に設定する操作ではありません。

◆ 伝言メモの起動中に電話がかかってくると

1 電話がかかってくる

伝言メモ応答時間設定で設定した応答時間が経過すると、伝言メモガイダンス中画面が表示されます。相手には伝言メモ応答ガイダンス設定に従って応答ガイダンスが流れます。

2 相手のメッセージが録音または録画される

- 開始時と終了時に相手には確認音（ピーツ）が鳴ります。また、開始時から約25秒後に終了予告音（ピビツ）が鳴ります。

3 録音または録画が終了すると、電話が切れる

✓お知らせ

- 応答ガイダンス中、伝言メモ録音または録画中でもを押すと電話に出ることができます。テレビ電話の場合はを押しても出られます。このとき、電話を受けるまでの録音内容や録画内容は記録されません。
- FOMA端末が圏外にいるときや電源が切れているときは、伝言メモは動作しません。留守番電話サービスをご利用ください。
- 伝言メモが4件録音または録画されると、待受画面にが表示され、伝言メモおよびクイック伝言メモは動作しません。不要な伝言メモを削除してください。留守番電話サービスまたは転送でんわサービスを開始にしている場合は各サービスが動作します。
- オリジナルマナーモード中は、オリジナルマナーモードの「伝言メモ」の設定に従います。

◆ 応答ガイダンスが始まるまでの時間を設定する〈伝言メモ応答時間設定〉

- お買い上げ時は、「13秒」に設定されています。

1 サイドキー [▲] (1秒以上) ▶ ▶ 応答時間を入力 (0～120秒)

◆ 応答ガイダンスを設定する〈伝言メモ応答ガイダンス設定〉

自分の声を応答ガイダンスとして録音できます。

- ガイダンスは1件、約10秒間録音できます。
- 内蔵音には「ただいま電話に出ることができません。ピーツという発信音の後に30秒以内でメッセージをお話してください。」と登録されています。

1 サイドキー [▲] (1秒以上) ▶ ▶ 伝言メモ応答ガイダンス欄を選択 ▶

- 内蔵音の応答ガイダンスに戻すときはを押し、操作3に進みます。

2 ガイダンスの編集欄の「録音」▶ 発信音の後に応答ガイダンスを録音する

メッセージが表示された後、録音が開始されます。

録音操作の補足説明→P72「応答保留ガイダンスを設定する」操作2

3

伝言メモまたは音声メモを再生／削除する

◆ 伝言メモ／音声メモを再生する

1 サイドキー [▲] (1秒以上) ▶ 2 (伝言メモ) または 4 (音声メモ)

〈例〉伝言メモ一覧画面



- マークの意味は次のとおりです。

☎/📞: 音声電話伝言メモ／再生済み伝言メモ

📞/📞: テレビ電話伝言メモ／再生済み伝言メモ

📞/表示なし: 通話中音声メモ／待受中音声メモ

📞: Bナンバーの発着信 (2in1がONでデュアルモードの場合)

📞: 海外滞在時 (GMT+9:00を除く) ※

📞: 国際電話の伝言メモまたは通話中音声メモ

- ※ 着信または録音日時が記録されていないときなど、表示されない場合があります。

2 メモを選択

- 再生中は画面の下に再生時間の経過が表示されます。

- 再生中は次の操作ができます。

🔊、サイドキー [▲▼]: 音量調整 ⏸: 停止

🔊: スピーカーホン機能ON／OFFの切り替え

- テレビ電話伝言メモ再生中はスピーカーホン機能がONに設定されて再生されます。スピーカーホン機能の切り替えはできません。
- マナーモード中にテレビ電話伝言メモを再生するときは、音声の再生確認画面が表示されます。「はいえ」を選択すると、消音で再生されます。

電話をかける: メモにカーソルを合わせて 🔊 または 📞

- 📞 3 を押すと、条件を設定して電話をかけられます。→P67

電話帳に登録する:

- ① メモにカーソルを合わせて 📞 ▶ 4 または 5 ▶ 1 または 2

- 登録済みの電話帳データに登録するときは、電話帳データを選択します。

- ② 名前やメールアドレスなどを登録

電話帳登録→P83

3 メモを削除するかどうかを選択

✓お知らせ

- 相手の電話番号が通知されなかった場合は、発信者番号非通知理由が表示されます。
- マルチナンバーを利用して発着信した場合は、発着信したマルチナンバーの名称が表示されます。
- 待受中音声メモを録音した場合は、「音声メモ」と表示されます。
- 国際電話の場合は、電話番号の前に「+」が表示されます。

◆ 伝言メモ／音声メモを削除する

1 サイドキー [▲] (1秒以上) ▶ 2 (伝言メモ) または 4 (音声メモ) ▶ メモにカーソルを合わせて 📞 2 ▶ 1 または 2 ▶ 「はい」

- 「全件削除」を選択した場合は、認証操作を行います。

キャラ電を利用する

テレビ電話中に送信するキャラクタを変更します。

● キャラ電の表示→P297

1 通話中に **[MENU]** **[4]** **[2]** **[1]** ▶ フォルダを選択 ▶ キャラ電を選択



- 通話中に次の操作ができます。
[1] ~ **[9]**、**[#]** : アクション **[0]** : アクションの中止
[*] : アクション一覧の表示

通話中に相手側に送信する映像について設定する

1 通話中に目的に応じた操作を行う

カメラ画像／代替画像を切り替える : **[*]**

「カメラ画像」にすると、外側のカメラに切り替わります。

ナイトモードに切り替える※1 : **[*]**

ナイトモードを「ON」に切り替えると、カラーランプが点灯します。

表示倍率を切り替える〈ズーム〉※1 : **[*]**

● **[*]**を押すたびに次の順で、**[*]**を押すとき逆の順で切り替わります。

標準→2倍→4倍→6倍→8倍→10倍→12倍→16倍

映像に特殊な効果をかける〈撮影モード〉※1 : **[MENU]** **[2]** ▶ **[1]** ~ **[4]**

逆光になる被写体を撮影したり、映像を白黒やセピア調にしたりできます。

映像の明るさを調整する※1、2 : **[MENU]** **[3]** **[1]** ▶ **[*]**で調整 ▶ **[*]**

● お買い上げ時は、「3段階目」に設定されています。

● 5段階で調整できます。

ちらつきを調整する※1、2 : **[MENU]** **[3]** **[2]** ▶ **[1]** ~ **[3]**

お使いの地域の電源周波数に合った設定に切り替えると、ちらつきが抑えられる場合があります。

● お買い上げ時は、「自動」に設定されています。

● カメラ、バーコードリーダーのちらつき調整の設定にも反映されません。

映像にフレームを重ねる※1 : **[MENU]** **[4]** **[1]** ▶ フレームを選択

● 画像サイズが176×144以下のフレームのみ選択できます。

● 解除するときは **[*]**を押します。

カメラオフ画像を送信する : **[MENU]** **[4]** **[3]**

代替画像設定で設定した代替画像が送信されます。

● 代替画像にキャラ電を設定している場合は、標準画像が送信されます。

静止画を送信する : **[MENU]** **[4]** **[4]** ▶ フォルダを選択 ▶ 静止画を選択

● 画像サイズが176×144以下で、FOMA端末外への出力ができる静止画のみ設定できます。

FOMA端末外への出力が禁止されている画像→P313「表示項目と変更可否一覧」の「ファイル制限」

● 解除するときは **[*]**を押します。

接写撮影に切り替える※1 : 接写切り替えスイッチを **[*]**側に切り替える
約6~11cmのごく近い距離の映像を送信するときに映像のピントを合わせられます。

● 解除するときは、接写切り替えスイッチを **[*]**側に切り替えます。

送信／受信画像の品質を設定する : **[MENU]** **[6]** ▶ **[1]** または **[2]** ▶ **[1]** ~ **[3]**

標準 : 標準的な品質

動き優先 : 動きがなめらかになり、画質がやや粗くなる

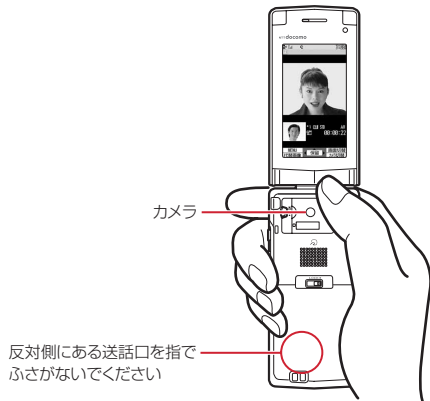
画質優先 : 映像が細やかになり、動きがやや鈍くなる

※1 カメラ映像送信中のみ設定できます。

※2 通話終了後も設定内容は保持されます。

■ お互いの映像を見ながらテレビ電話をする

自分の顔を相手に送信する場合は、通話中に CAM を押して「カメラ画像」に切り替えた後、ディスプレイを右回りに180度回転させてカメラを自分側に向けます。



テレビ電話中の画面表示について設定する

- 通話終了後も設定内容は保持されます。

1 通話中に目的に応じた操作を行う

親子画面の表示を切り替える： CAM

親画面のサイズを変更する： SIZE （1秒以上）

- 押すたびに大→中→小→大の順に切り替わります。

画面表示を設定する： MENU 7 ▶ 各項目を設定 ▶ CAM

各項目設定→P77「テレビ電話の設定を変更する」

テレビ電話動作設定

テレビ電話の設定を変更する

テレビ電話がつながらなかったときの動作や、テレビ電話中の画面、スピーカーホンについて設定します。

- 相手へのアクセスをより確実なものとするために、音声自動再発信があります。「ON」にすると、テレビ電話をかけた相手がテレビ電話に対応していない端末の場合や、デュアルネットワークサービスでmoVaサービスを利用中の場合などでテレビ電話を受けられないときなどに、音声電話に切り替えて再発信します。ただし、ISDN同期64Kのアクセスポイント、3G-324Mに対応していないISDNのテレビ電話など（2008年6月現在）、間違い電話をした場合は、このような動作にならないことがあります。通話料金が発生する場合もあるためご注意ください。

1 MENU 【設定／NWサービス】 6 3 ▶ 各項目を設定 ▶ CAM

音声自動再発信：テレビ電話がつながらなかった場合、音声電話で再発信するかどうかを設定します。

テレビ電話画面設定：「自画像」または「相手画像」のどちらか一方を表示するか、「両方」を表示するかを設定します。

- 「自画像」または「相手画像」にすると、子画面表示は設定できません。

子画面表示：子画面に表示する画像を設定します。

画面サイズ設定：親画面の表示サイズを設定します。

受信画質設定：相手から受信する画像の画質を設定します。

照明設定：「端末設定に従う」にすると、ディスプレイの照明設定の明るさ調整に従います。

スピーカーホン設定：テレビ電話接続時にスピーカーホン機能を利用するかどうかを設定します。

✓お知らせ

- 音声自動再発信を「ON」にし、パソコンとつないだバケット通信中にテレビ電話を発信すると、再発信が行われ音声電話に接続されます。音声電話中や64Kデータ通信中は、音声自動再発信が「ON」でも、テレビ電話を発信できません。
- 音声自動再発信が「ON」の場合、音声で再発信したときの通話料金はデジタル通話料ではなく音声通話料になります。

テレビ電話画像選択

テレビ電話の代替画像や保留画像などを設定する

- 次の画像は設定できません。
 - サイズが176×144より大きい静止画
 - アニメーション、パラパラマンガ
 - JPEG形式、GIF形式以外の静止画
 - FOMA端末外への出力が禁止されている画像→P313「表示項目と変更可否一覧」の「ファイル制限」

1  **【設定／NWサービス】** **6** **5** ▶ **1** ~ **5** ▶ **イメージ表示欄**を選択

2 **1** または **2** ▶ 

- 代替画像設定の場合は **1** ~ **4** を選択します。
- 「選択キャラ電」（代替画像設定のみ）または「イメージ」を選択した場合は、イメージ一覧欄を選択し、画像を選択します。

✓お知らせ-----

- 代替画像に設定したキャラ電を削除した場合、代替画像は標準キャラ電に戻ります。静止画、標準キャラ電を削除した場合は標準画像になります。
- 伝言メモ画像、応答保留画像、通話中保留画像、動画メモ画像に設定した静止画を削除した場合は標準画像に戻ります。

テレビ電話切替機能通知

音声電話とテレビ電話の切り替えについて設定する

音声電話とテレビ電話を切り替えて通話するには、あらかじめテレビ電話切替機能通知を開始しておく必要があります。テレビ電話切替機能通知とは、自分の端末が音声電話とテレビ電話を切り替えられる端末であることをネットワークに通知しておく機能です。

- 音声電話中やテレビ電話中は、テレビ電話切替機能通知の設定を変更できません。
- 圏外では設定の操作はできません。電波状態のよい所で操作してください。
- お買い上げ時は、テレビ電話切替機能通知は開始に設定されています。

1  **【設定／NWサービス】** **6** **7**

2 **1** または **2** ▶ 「はい」

- 設定内容を確認するときは **3** を押し、「はい」を選択します。

パケット通信中着信設定

パケット通信中着信設定を設定する

i モード中またはデータ放送サイト表示中にテレビ電話がかかってきたときの対応方法を設定します。

1  **【設定／NWサービス】** **6** **4** ▶ **1** ~ **4**

テレビ電話優先：テレビ電話の着信画面が表示され、電話に出ると i モード通信またはデータ放送サイトの表示が中断されます。テレビ電話を終了すると、i モードの画面に戻ります。データ放送サイト表示中は、ワンセグのタイムシフト機能が動作します。

パケット通信優先：i モード通信またはデータ放送サイトの表示が継続され、着信履歴に記録されます。

留守番電話：留守番電話サービスセンターに接続します。

転送でんわ：転送先へ転送します。

✓お知らせ-----

- 留守番電話サービスや転送でんわサービスを契約していない場合は、「留守番電話」または「転送でんわ」を設定しても「パケット通信優先」の動作となります。
- 留守番電話サービスまたは転送でんわサービスを開始にし、呼出時間が「0秒」の場合は、本設定に関わらず各サービスが動作します。着信履歴には記録されません。

外部機器と接続してテレビ電話を使用する

パソコンなどの外部機器とFOMA端末をUSBケーブルで接続することで、外部機器からテレビ電話の発信操作ができます。

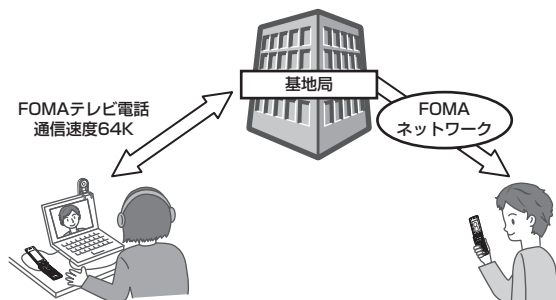
この機能を利用するためには、専用の外部機器、またはパソコンにテレビ電話アプリケーションをインストールし、さらにパソコン側にイヤホンマイクやUSB対応Webカメラなどの機器（市販品）を用意する必要があります。

- FOMA端末が外部機器と接続されていないときは利用できません。
- テレビ電話アプリケーションの動作環境や設定、操作方法については、外部機器の取扱説明書などをご覧ください。

※ 本機能対応アプリケーションとして、「ドコモテレビ電話ソフト」をご利用いただけます。
ドコモテレビ電話ソフトホームページからダウンロードしてご利用ください。

（パソコンでのご利用環境など詳細については、サポートホームページでご確認ください。）

<http://videophonesoft.nttdocomo.co.jp/>



✓お知らせ

- 音声電話中は、外部機器からテレビ電話をかけられません。
- キャッチホンをご契約いただいていると、音声電話中に外部機器からのテレビ電話の着信があった場合、不在着信として記録されます。外部機器からのテレビ電話中に音声電話、テレビ電話、64Kデータ通信の着信があった場合も同様です。

1 【設定／NWサービス】 ▶ または

